

●平成24年度推薦入学についての講評等

1 小論文

(1) 方法

著名な学者のある言葉を示した上で、「生徒の考え」を問う形式。

本学で学ぶ学生には、日頃から自分の体験を含め「人間・社会に関する興味」を持ってもらいたい。

そのような著名な学者の人間社会に関するある言葉を提示した上で、生徒が自分の体験などを根拠に「主体的に考えあるべき見解をどう示すか」を評価した。

(2) 結果に関する評価

課題に対して、理由は根拠をきちんと示した上で、自分の意見を主張できていた論文については良い評価が下されている。

その一方で、課題に答えていない論文や意見の理由や根拠が示されていない論文、論点がバラバラで一貫性に欠ける論文、極端に字数が足りないまたはオーバーしている論文などは、評価が低くなる。

推薦入学における小論文の評価の観点は、「与えられた課題に対して、生徒が主体的にどのように取り組むか」という点である。与えられた課題に対して、自分なりの意見を積極的に主張してほしい。

まとまりのない文書では、意見が伝わらない。自分の意見を持ち、言いたいことが伝わるようなまとまりのある文章を書けるようにご指導いただきたい。

また、誤字脱字が多い文章、乱筆や字が小さすぎ判読に困る文章、段落がない文章などが散見される。作文の基本を守った読みやすい文章が書けるよう、ご指導いただきたい。

2 グループ面接

(1) 方法

事前（受験票送付の際）に、課題に関する「キーワード」を提示し、キーワードについて十分勉強してきたという前提で、自分の意見を理解しやすい形で発表できるか、グループ討議に建設的に参加しようとしているか、対立軸を設定して双方の立場から適切な状況把握ができるか、などの観点で評価した。

※平成24年度のキーワード

「飲酒、運転免許、大人、社会、責任」の5つ。

(注) キーワードは、手近な資料（「現代用語の基礎知識」等）で調べられるものとするので、十分勉強してほしい。キーワードを調べる際に、教員が相談にのることは構わない。

(2) 結果に関する講評

キーワードについて十分な学習ができているかが評価の差となった。状況把握が的確で他人の意見を引き出す発言や、長所・短所両方の立場から説得的な内容の発言をする生徒は評価が高かった。逆に発言は多いが他人の意見に追従的な内容や、論点がずれているもの、自分の意見を十分にまとめ切れていない場合は評価が低かった。キーワードを十分に勉強し、自分の意見を論理的にまとめて、相手の意見をよく聞きながら積極的に発言する

練習をすることを勧める。

今回から自分の前に発表用紙を提示して説明することになったが、発表用紙を面接員に示さない場合や、用紙に書いた内容と発言内容が異なる場合もあった。自分の意見を適切なキーワードで表し、それについて論理的に説明する訓練が必要である。

個人面接

(1) 方法

1人約20分面接を行った。質問は主に次の3点についてであった。

①表現する力

自己推薦書やアピールポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。

②面接の態度

相手の発言を真摯にきく態度であるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

③適正や意欲

入学への真の意欲があるか

「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

①「大学案内」を熟読し、本学のカリキュラムの特徴や理念、コースやゼミなどについてしっかり理解しておくことが必要である。理解不足のために面接員の質問に十分答えられないケースもあった。

②本学の教育目標やカリキュラムの特徴を十分理解した上で、自分の将来像を描くことが大切である。進学理由が明確でない場合や、将来就きたい職業や取得したい資格に関する情報収集が不足している場合もあった。

③自己推薦書の内容について、具体性に乏しいものがあった。また推薦書に書かれている内容と面接の内容が大幅に食い違っているケースもあった。内容をよく確認することが大切である。

④面接員が何を質問しているのかを正確に理解して、適切な回答をすることが求められる。緊張のあまり面接員の質問の意味が理解できない場合もあったが、その時は聞き返しても問題は無い。